

2013年3月期 決算説明会

2013年5月10日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山下 正弘



- 2013年3月期 連結決算の概況
- 中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」の進捗状況
- 研究開発パイプラインの状況
- 2014年3月期 連結業績予想と配当

2013年3月期 連結決算の概況

2013年3月期 連結決算の概観

(単位:億円)

	12年3月期 実績	13年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,032	1,070	+38	+3.7	-8
営業利益	145	179	+34	+24.1	+5
経常利益	153	187	+34	+22.3	+7
当期純利益	92	124	+32	+34.6	+6

※過去最高の売上高、利益を達成

セグメントの売上高の増減(連結)

(単位:億円)

	12年3月期 実績	13年3月期 実績	対前年		対予想	
			増減額	増減率(%)	増減額	
売上高 合計	1,032	1,070	+38	+3.7	-8	
医薬品事業	1,007	1,052	+45	+4.5	-5	
	新医薬品	880	907	+27	+3.0	-4
	国内	860	883	+23	+2.7	-3
	海外	20	24	+4	+19.1	-1
	後発医薬品	87	101	+14	+16.6	-1
一般用医薬品他	40	44	+4	+9.8	0	
ヘルスケア(スキンケア)事業	26	19	-7	-27.5	-2	

	対前年増減額	増減のポイント	対予想増減額	増減のポイント
国内新医薬品	+23	・キプレス、ウリトスが伸長 ・キョーリン製薬グループ工場の売上寄与(6ヶ月間)	-3	・キプレスの売上が予想を上回った ・ムコダイン等の売上が予想を下回った
海外新医薬品	+4	・ガチフロキサシンの売上横ばい (現地売上 2011年度 \$92MM → 2012年度 \$80MM) ・ペキロン資産譲渡による契約金収入	-1	・ガチフロキサシンの売上が予想を下回った
後発医薬品	+14	・保険調剤薬局への売上および他社受託生産品の売上増	-1	・重点品の売上が予想を下回った
一般用医薬品他	+4	・殺菌消毒剤「ミルトン」、OTC等の売上増	0	
ヘルスケア(スキンケア)事業	-7	・ドクタープログラムの売上減少	-2	・ドクタープログラムの売上が予想を下回った

損益の概要(連結)

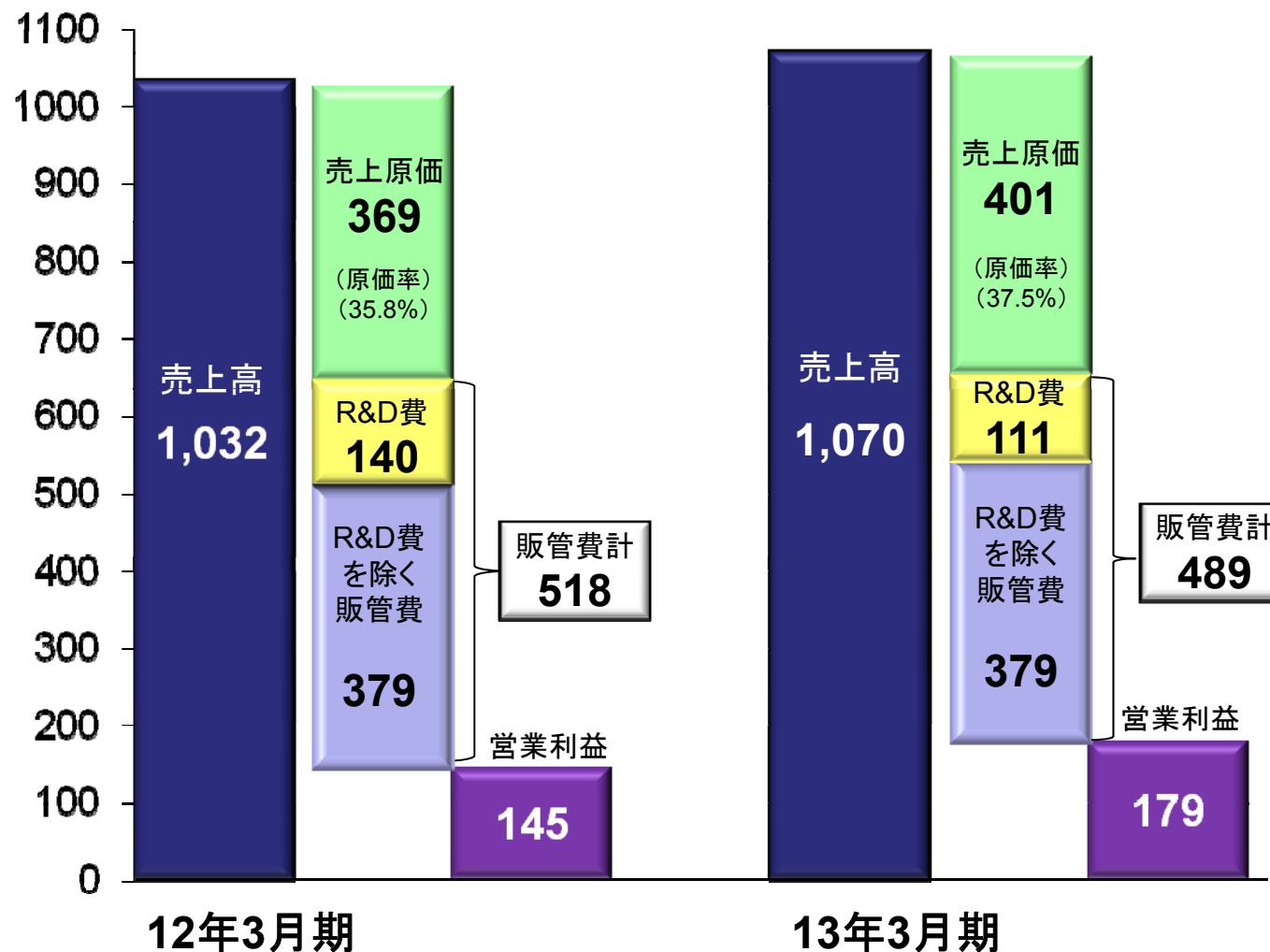
(単位: 億円)

	12年3月期 実績	13年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
売上高	1,032	1,070	+38	+3.7	-8
売上原価	369	401	+32	+8.7	-
販売費及び一般管理費	518	489	-29	-5.6	-
R&D費	140	111	-29	-20.8	-4
R&D費を除く販管費	379	379	0	+0.0	-
営業利益	145	179	+34	+24.1	+5
経常利益	153	187	+34	+22.3	+7
当期純利益	92	124	+32	+34.6	+6

	対前年 増減額	増減のポイント	対予想 増減額	増減のポイント
営業利益	+34	<ul style="list-style-type: none"> ▶売上総利益が6億円増 •原価率が1.7ポイント上昇したものの、増収により増加 ▶R&D費の減少29億円 •前年にKRP-108 PhⅢ及びペンタサ新用法・用量PhⅢ終了 •KRP-104の開発中止に伴う費用低減 	+5	<ul style="list-style-type: none"> ▶R&D費の減少(-4億円) •杏林製薬 : 治験期間短縮(KRP-AB1102)によりR&D費を削減 •キョーリンリメディオ : 共同開発によりR&D費の削減 ▶販管費(R&D費を除く)の減少 •杏林製薬及びドクタープログラムの販売費の減少

2013年3月期 業績(連結)のポイント:対前年

(単位:億円)



ポイント①

- 売上高は38億円増加
 - ・主に国内新医薬品、後発品が伸長
 - ・キョーリン製薬グループ工場の売上寄与

ポイント②

- 売上原価率は1.7ポイント増加
 - ・薬価改定の影響(杏林製薬:6%台)
 - ・後発品の売上増加
 - ・キョーリン製薬グループ工場の影響

➢売上総利益は6億円増加

ポイント③

- 販管費は29億円減少
 - ・主にR&D費の減少によるもの

営業利益は34億円増加

主力製品の売上増減

(単位:億円)

	12年3月期 実績	13年3月期 実績	対前年		対予想
			増減額	増減率(%)	増減額
キプレス	368	396	+28	+7.7	+16
ムコダイン	215	191	-24	-10.8	-10
ペンタサ	180	176	-4	-2.0	-3
ウリトス	63	75	+12	+18.3	-4
ガチフロキサシン(海外)	17	16	-1	-2.2	-1

中期経営計画「HOPE100－ステージ1－」
の進捗状況

マルチ・コア戦略(MC戦略)

— 医薬品事業を中核とするヘルスケア事業の多核化 —

医薬品事業

ファーマ・コンプレックス・モデル

(PCモデル)



複合的な事業展開

(新薬群、先発品群、後発品群)

ヘルスケア事業

既存事業の育成と新規事業の拡充と育成

2015年度目標
(2016年3月期)

売上高1,400億円 営業利益200億円

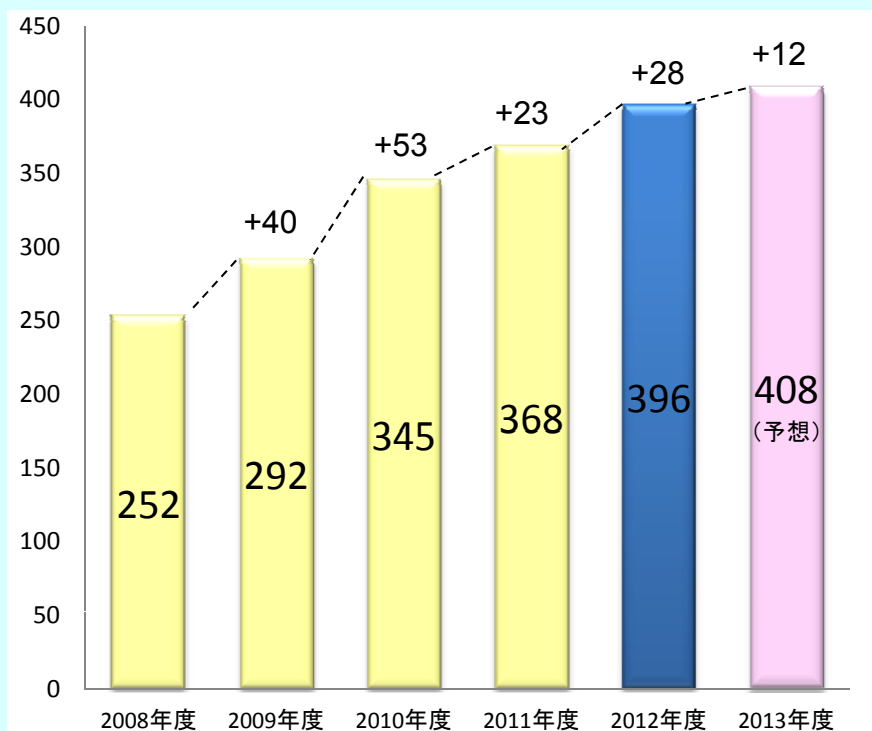
- **新薬群** : 主要製品の普及の最大化を図る(キプレス、ウリトス)
開発パイプラインの強化及び開発促進を目指す(KRP-108他)
- **先発品群**: LCMによる製品価値の向上とライフサイクルの延長を図る
(ムコダイン、ペントサ)
- **後発品群**: 国内外のアライアンス推進により原価低減、品揃えを図る
グループ内での連携強化による特色あるジェネリック事業を推進する

※LCM: ライフサイクルマネジメントの略

【新薬群】 キプレス

【気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤】 キプレス

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:400億円以上

■2012年度の状況

●ロイコトリエン拮抗剤市場におけるシェアの拡大

33.3%(2012年3月MAT) ⇒ 34.9%(2013年3月MAT)

(出典:Copyright 2013 IMSジャパン(株)IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

※薬価改定率:7.9%

対予想(+16億円)

- ・アレルギー性鼻炎での処方増(花粉が想定より多く飛散)
- ・小児剤型の処方拡大(チュアブル錠5mgの売上増)

■2013年度の取り組み

●アレルギー性鼻炎における処方拡大

- ・初期療法を訴求、耳鼻科に注力

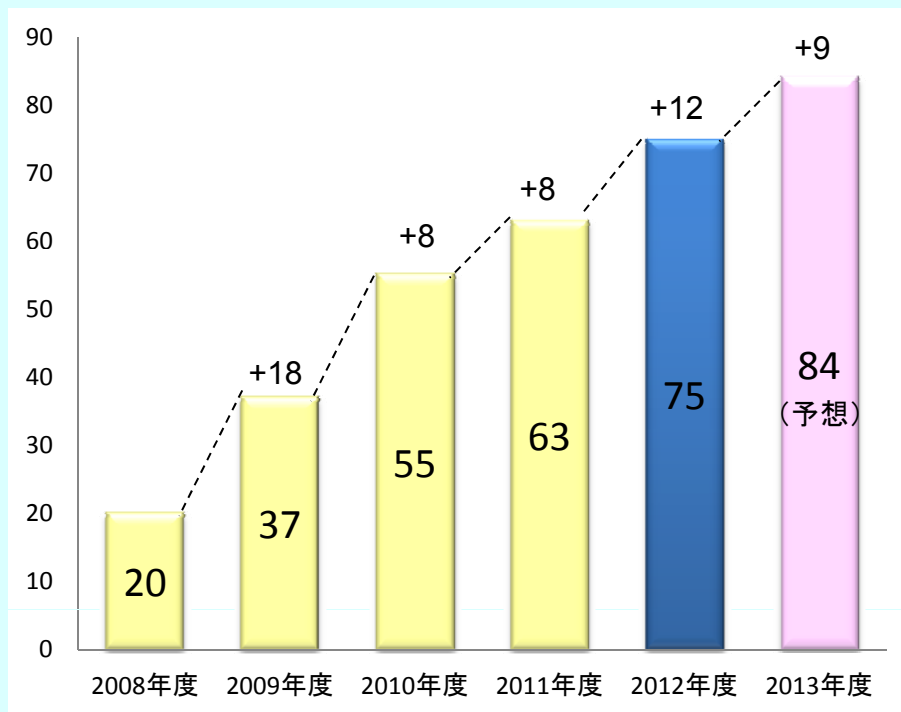
●喘息(成人、小児)患者さんでの処方維持・拡大

- ・成人:鼻炎合併喘息の有用性を訴求
- ・小児:細粒4mgへの注力、チュアブル錠5mgへの移行促進

【新薬群】 ウリトス

【過活動膀胱治療剤】 ウリトス

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:100億円

■2012年度の状況

●OAB市場:

640億円(2012年3月MAT)⇒700億円(2013年3月MAT)

●ウリトスシェア:

10.7%(2012年3月MAT)⇒11.4%(2013年3月MAT)

(出典: Copyright 2013 IMSジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

※薬価改定率:0.5%

■2013年度の取り組み

●「使い易さ」の浸透による、面拡と量拡の推進

- ・効果と安全性のバランス
- ・症状にあわせた用量調節

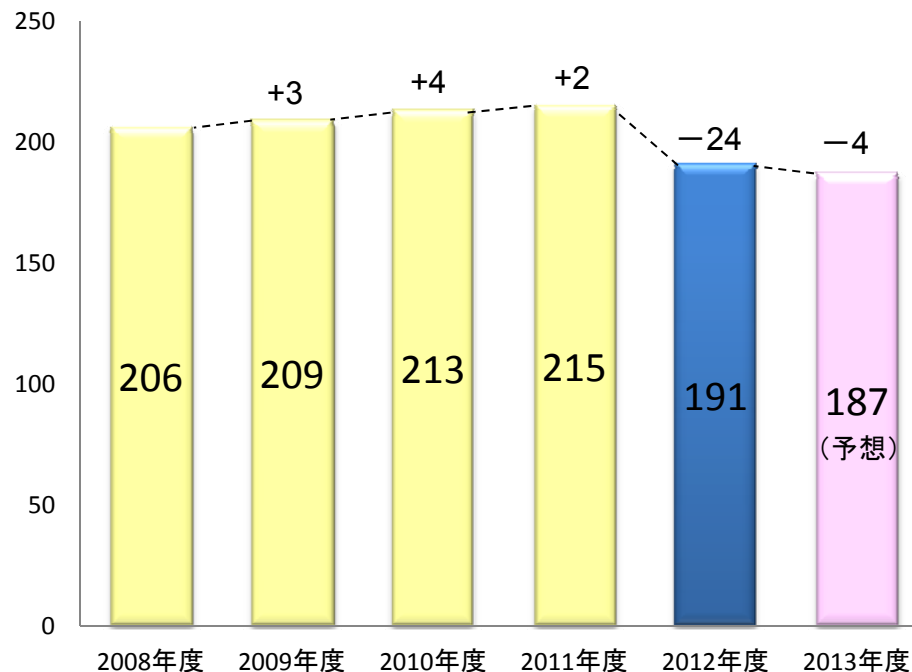
●潜在市場の掘り起こし

- ・患者さんと医師の啓発活動により拡大を図る

【先発品群】 ムコダイン

【気道粘液調整・粘膜正常化剤】 ムコダイン

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:240億円

■2012年度の状況

●去痰剤市場におけるムコダインのシェア:

48.8%(2012年3月MAT)⇒46.9%(2013年3月MAT)

・ジェネリック(カルボシステイン)のシェア

4.1%(2012年3月MAT)⇒6.3%(2013年3月MAT)

(出典:Copyright 2013 IMSジャパン(株)IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

※薬価改定率:6.4%

対予想(-10億円)

・後発品使用促進策(2012年4月より実施)の影響

■2013年度の取り組み

●「DS50%」の普及の最大化

- ・小児における上気道炎(急性疾患)への処方組入れ
- ・高齢者 呼吸器疾患での新規処方獲得

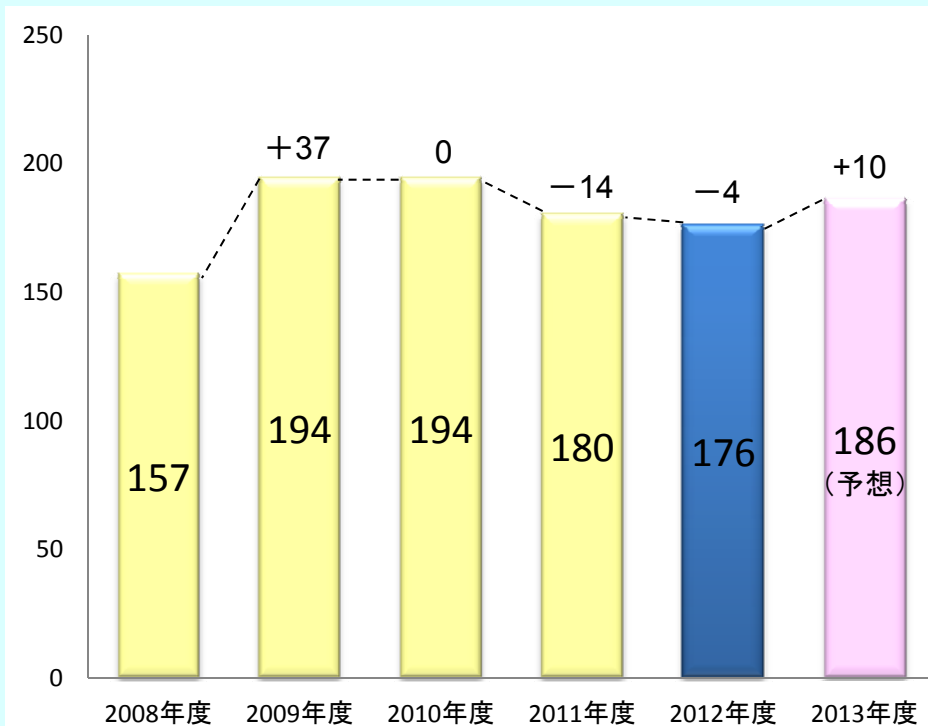
●エビデンスに基づく慢性疾患での処方拡大

- ・気管支喘息、慢性気管支炎、慢性副鼻腔炎

【先発品群】 ペンタサ

【潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤】 ペンタサ

売上高(単位:億円)



■2015年度の目標値:190億円

■2012年度の状況

●市場(メサラジン製剤等) : 約8%拡大
310億円(2012年3月MAT)⇒340億円(2013年3月MAT)

ペンタサシェア:

63.0%(2012年3月MAT) ⇒ 56.8%(2013年3月MAT)

(出典: Copyright 2013 IMSジャパン(株) IMS-JPMをもとに作成 無断転載禁止)

※薬価改定率:5.5%

■2013年度の取り組み

●新剤型(坐剤)の早期市場浸透(5月発売予定)

●シンプルな処方案の提案(利便性の向上)

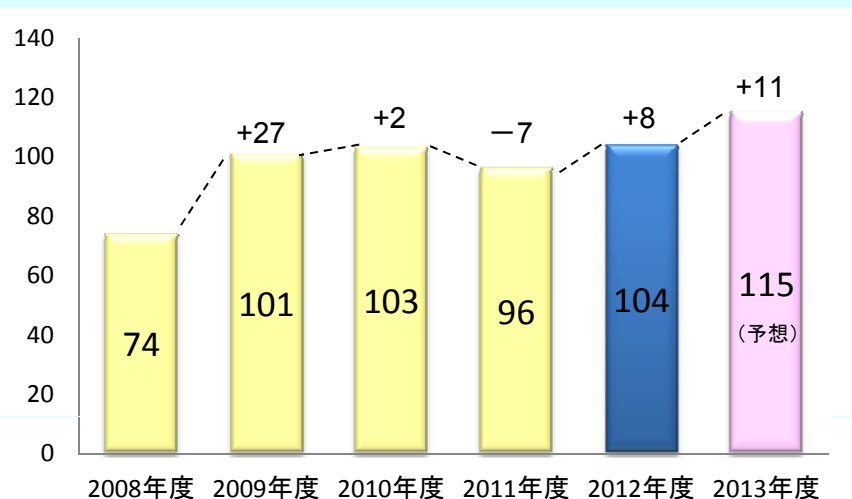
- ・UC活動期4g分2投与
- ・UC寛解期2g分1投与(1日1回投与の浸透)

※ UC : 潰瘍性大腸炎の略

【後発医薬品事業】キョーリン リメディオの状況

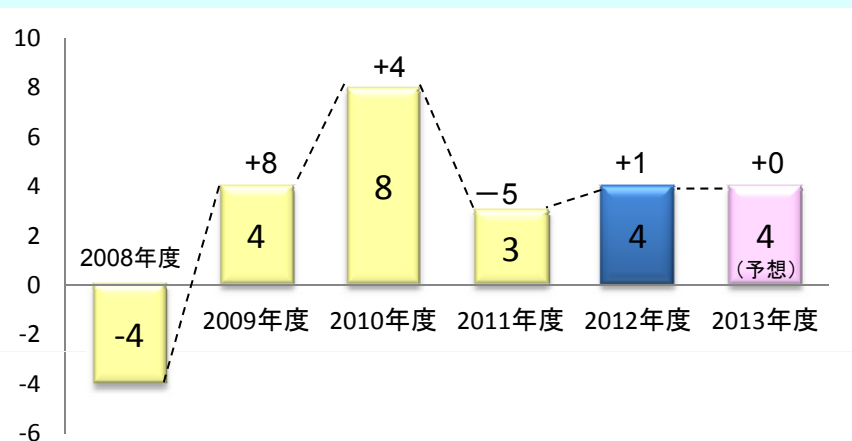
売上高

(単位:億円)



営業利益

(単位:億円)



■2013年度の取り組み

国内外アライアンスの推進

- ・自社開発の促進及び受託ビジネスの拡大

グループ内連携の強化

- ・杏林製薬との販売面での連携強化

➤売上高

■重点品の売上拡大

- ・アムロジピン、ドネペジル等

■大型追補品の上市と目標の完達

- ・骨粗鬆症治療剤
- ・アレルギー性疾患治療剤
- ・HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン)

➤利益

■収益性の向上を目指す

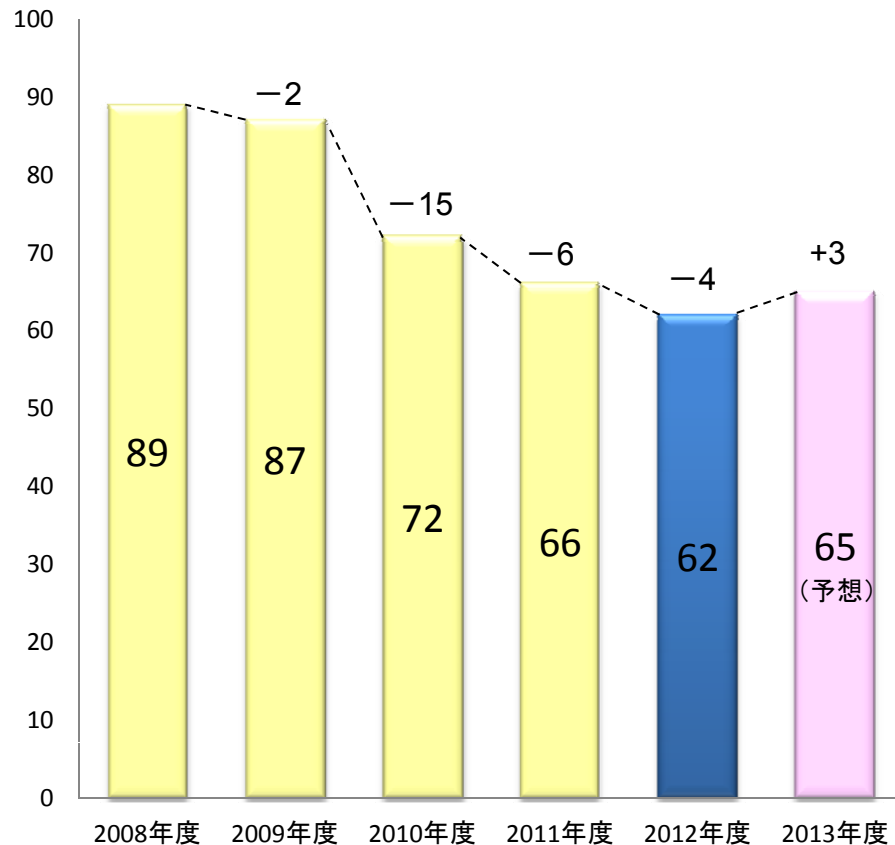
- ・高利益製品の販売拡大
- ・設備稼働率のアップ
- ・原薬、資材の購入価格の低減

■R&D費の増加

- ・前年は共同開発によりR&D費を削減

ヘルスケア事業(スキンケア+一般用医薬品他)

ヘルスケア事業の売上高 (単位:億円)



■ スキンケア事業

収益事業化と成長促進(含むアジア市場展開)

■ ミルトン事業他

ミルトンブランドを活用した新たな事業展開

■ 新規事業

企業理念を具現化する新規事業の拡充と育成を目指す
(環境衛生事業他)

■ 2015年度の目標値:200億円

スキンケア事業の取り組み

■ドクタープログラム(株)

➤2013年度に黒字化を目指す

売上高17億円 営業利益1億円

➤選択と集中により、事業の再成長を図る

●販売について

- ・販路は通信販売に集中し、効率的な顧客の育成と獲得を推進
- ・グループとしての強みを発揮できる顧客の獲得(医療従事者)

●コストについて

- ・適正な人員配置、費用対効果を考慮した広告宣伝費・販促費の活用



【インナーホワイト シリーズ】



【ジェルクリーム プレミアム】

環境衛生事業の取り組み

■環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」の普及

- 環境衛生事業の中核となる製品と位置づけ、対象施設を重点化し、新規採用、そして院内標準化による使用拡大を目指す（2013年度の売上目標：約3億円）

●感染防止対策加算1施設(注)でのルビスタ採用率の拡大：対象施設は約1,000軒
※米国の状況：「医療現場における消毒・滅菌のためのガイドラインCDC2008(米国疫病予防管理センター)」で推奨されている
(注)感染防止対策加算1施設：専任の院内感染管理者が配置され感染防止に係る部門を設置している等の要件を満たしている施設

■殺菌消毒剤「ミルトン」の拡充

(単位：億円)

	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度 (予想)
売上	18	19	19	19	20	21



【ルビスタ】

- 感染防止対策加算1施設で、「ミルトン」と「ルビスタ」の標準化を目指す

■今後の対応

- 製品ラインナップの拡充に努め、収益性の高い事業の構築を目指す
- 現場ニーズに基づくモノ創りのコンセプトに沿って製品改良、用途拡大に取り組む






















【ミルトン】

研究開発パイプラインの状況

開発パイプライン:2012年度の進捗状況










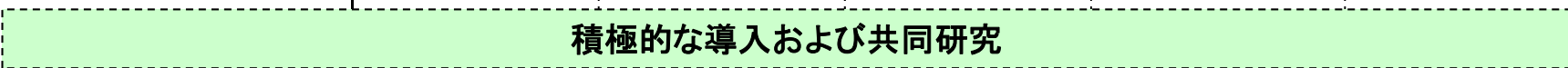












呼吸器関連製品とペンタサライフサイクルマネジメントで着実な進展

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	KRP-108				 申請	
	KRP-AB1102			 Ph III 開始		
	KRP-AB1102F		 Ph II 開始			
泌尿器	積極的な導入および共同研究					
耳鼻科	KRP-209					
感染症	KRP-AM1977X					
	KRP-AM1977Y	 Ph I 開始				
IBD	ペンタサ(UC)1日1回					 承認
	ペンタサ(UC)坐剤					 承認
	KRP-203		 Ph II 開始			

 2012年度の進捗状況

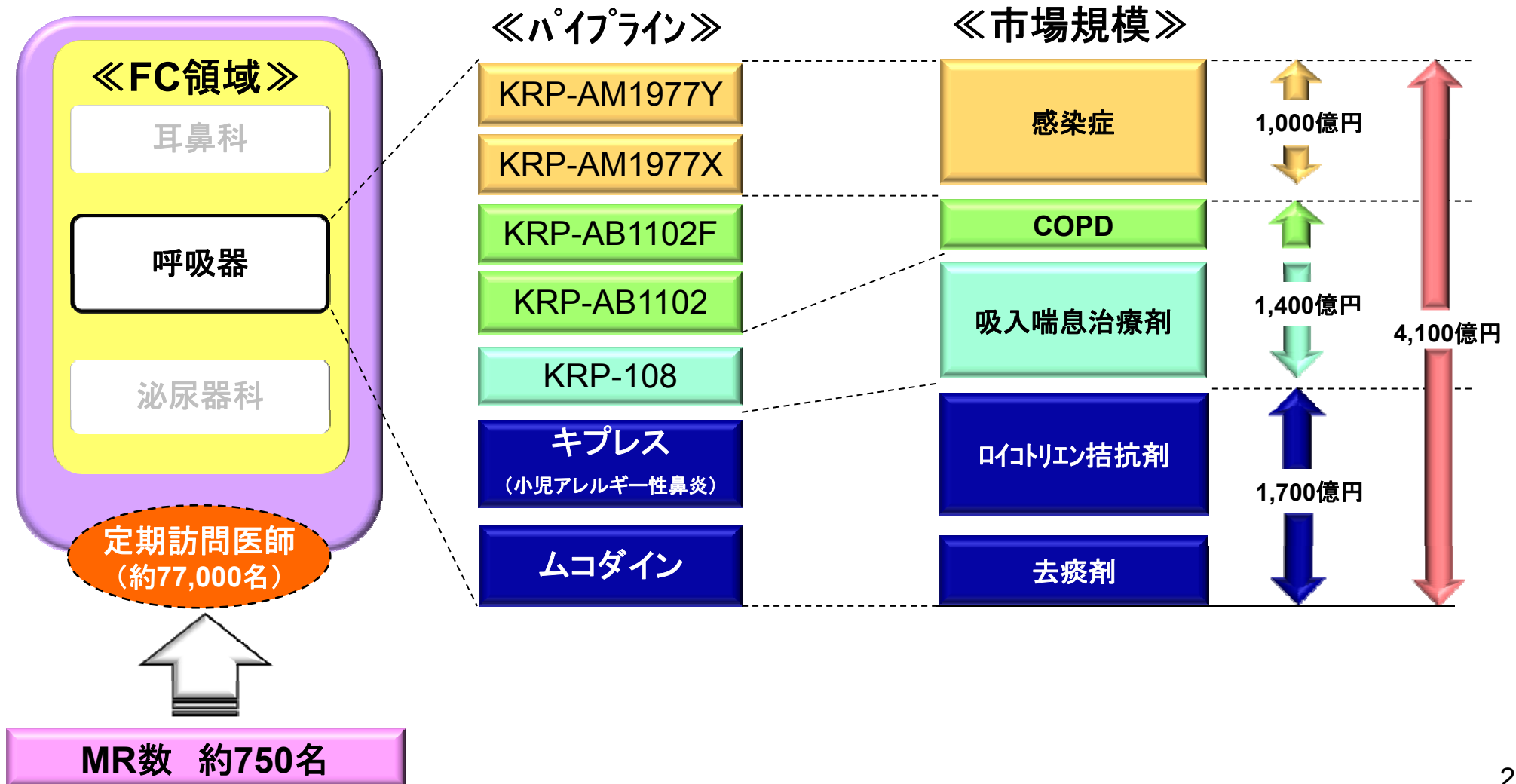
開発パイプライン:2013年度の取り組み(予定)

呼吸器、耳鼻科 関連製品において早期ステージUPを目指す

	製品名・開発コード	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認・上市
呼吸器	KRP-108					
	KRP-AB1102					
	KRP-AB1102F					
泌尿器						
耳鼻科	キプレス アレルギー性鼻炎 (1歳～15歳未満)					
	KRP-209					
感染症	KRP-AM1977X					
	KRP-AM1977Y					
IBD	ペンタサ(UC)坐剤					
	KRP-203					

 2013年度の取り組み

呼吸器領域における関連製品と市場状況



気管支喘息治療剤「KRP-108」開発の進展

■進展状況

- 2012年9月申請
- 2013年度中の承認・上市を目指す

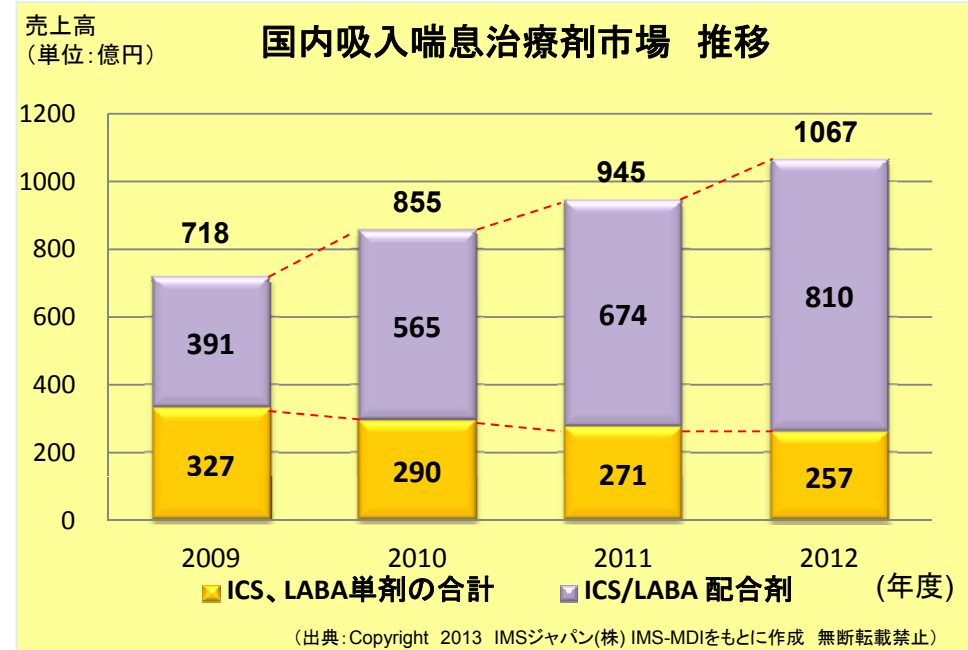
■製品名:フルティフォーム® (Flutiform®)

(フルチカゾンプロピオン酸エステル / ホルモテロールフマル酸塩の吸入配合剤)

■製品の特長

- 最も強い抗炎症作用を示すフルチカゾンと効果発現の早いホルモテロールを配合
- 吸入操作が簡単なpMDIをデバイスを採用

※pMDI: 定量加圧式噴霧器



【参考情報】

海外状況 (2013/5/9現在)

- 発売元 : 欧州: ムンディファーマ
- 発売国 : 9ヶ国 (ドイツ、イギリス、キプロス、デンマーク、アイルランド、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、ノルウェー)
- 承認国 : 12ヶ国 (オーストリア、ベルギー、ブルガリア、チェコ、アイスランド、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、フランス、イタリア、ルクセンブルグ)

新剤型「ペンタサ®坐剤1g」: 開発の進展

■坐剤の開発情報

- 2013年3月承認取得
- 2013年5月薬価収載後の発売(予定)

■坐剤の特長

- 高い血便消失と高い安全性
 - ・UCの2大症状は血便と下痢
- 直腸炎型のみならず他の病型の患者さんにも有用
 - ・UCは直腸から上行性に始まる疾患
- 経口剤と局所製剤の併用療法は単独投与より高い治療効果を示す(本邦および欧米の診療ガイドライン)

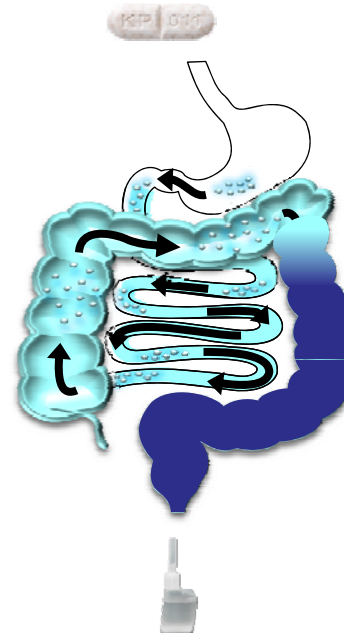
※ UC : 潰瘍性大腸炎の略

「Combination」による治療の訴求

病型/病変範囲により局所製剤を使い分け

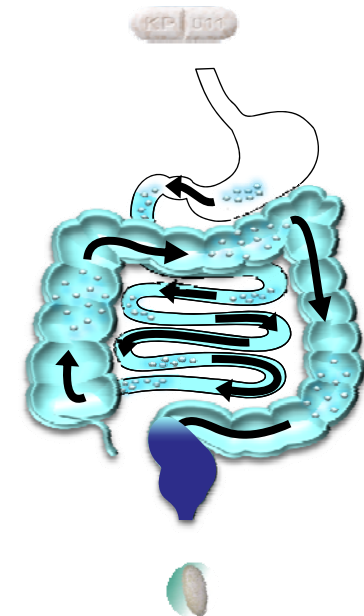
【経口+注腸】

「全大腸炎型と左側大腸炎型には注腸製剤と経口剤のCombination」



【経口+坐剤】

「直腸炎型には坐剤と経口剤Combinationもしくは坐剤単独」



2014年3月期
連結業績予想と配当

2014年3月期 連結業績予想

(単位: 億円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 予想	対前年	
			増減額	増減率(%)
売上高 合計	1,070	1,130	+60	+5.6
医薬品事業	1,052	1,113	+61	+5.8
ヘルスケア(スキンケア)事業	19	17	-2	-9.0
営業利益	179	186	+7	+3.6
経常利益	187	192	+5	+2.8
当期純利益	124	127	+3	+2.2

			対前年増減額	増減のポイント
売上高 合計			+60	
医薬品事業			+61	
新医薬品			+49	
国内			+52	・キプレス、ウリツスの売上増 ・新製品の売上寄与 ・キョーリン製薬グループ工場の年間寄与
海外			-3	
後発医薬品			+10	・重点商品の売上拡大、大型追補品の発売
一般用医薬品他			+2	・ミルトン、ルビスタの売上増
ヘルスケア(スキンケア)事業			-2	・ドクタープログラム
営業利益			+7	・R&D費(+10億円)の増加、本社移転等一時的費用、 新製品発売に伴う販売費の増加を見込む

※過去最高の売上高、利益の更新を目指す

【参考】対前年同期のポイント

- ・売上原価率は前年比で横ばい
- ・販管費比率(R&D費を含む)は前年比で横ばい

2014年3月期 主力製品及び後発品事業の売上予想

(単位: 億円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期 予想	対前年	
			増減額	増減率(%)
キプレス	396	408	+12	+3.2
ムコダイン	191	187	-4	-2.0
ペンタサ	176	186	+10	+5.6
ウリトス	75	84	+9	+13.4
ガチフロキサシン(海外)	16	16	0	+3.1
後発品事業	101	111	+10	+10.3

株主還元について

基本方針

成長のための投資、事業継続のための投資、株主還元をバランスよく実施し、経営基盤の強化を図ります。株主還元は配当性向30%を目処に実施します。

当期純利益の推移

	2013年3月期 (予想)	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (予想)
当期純利益	118億円	124億円	127億円

配当の推移

	2013年3月期 (予想)	2013年3月期 ※	2014年3月期 (予想)
1株当たり配当金	50.00円	50.00円	52.00円
連結配当性向	31.7%	30.1%	30.6%

※5月27日に開催される取締役会で決定する予定です

参考資料

損益計算書の概要：連結①

(単位:百万円)

	12年3月期		13年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	103,232	100.0%	107,031	100.0%	+3.7%	+3,798
医薬品事業	100,654	97.5%	105,162	98.3%	+4.5%	+4,507
◆新医薬品	88,011	85.3%	90,686	84.7%	+3.0%	+2,675
○国内	85,995	83.3%	88,286	82.5%	+2.7%	+2,290
○海外	2,015	2.0%	2,400	2.2%	+19.1%	+385
◆後発医薬品	8,656	8.4%	10,095	9.4%	+16.6%	+1,439
◆一般用医薬品他	3,987	3.9%	4,379	4.1%	+9.8%	+392
ヘルスケア事業	2,577	2.5%	1,869	1.7%	-27.5%	-708

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社8社： 杏林製薬(株)
 Kyorin USA, Inc. Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences, Inc.
 キョーリン リメディオ(株)
 キョーリン メディカルサプライ(株)
 ドクタープログラム(株)
 キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

- 対前年
- 売上高 107,031百万円 (+3,798百万円)
 - 国内新医薬品 88,286百万円 (+2,290百万円)

	12.3実績	⇒	13.3実績	(億円)
・キプレス	368	⇒	396	(+28)
・ムコダイン	215	⇒	191	(-24)
・ペンタサ	180	⇒	176	(-4)
・ウリトス	63	⇒	75	(+12)

・キョーリン製薬グループ工場の寄与
 - 海外新医薬品 2,400百万円 (+385百万円)

・ガチフロキサシン	17	⇒	16	(-1)
-----------	----	---	----	------
 - 後発医薬品 10,095百万円 (+1,439百万円)

* 保険調剤薬局への売上及び、他社受託生産品の売上増
 - 一般用医薬品等 4,379百万円 (+392百万円)

* ミルトン、OTC等の売上増
 - ヘルスケア 1,869百万円 (-708百万円)

* ドクタープログラムの売上減

損益計算書の概要：連結一②

(単位:百万円)

	12年3月期		13年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	103,232	100.0%	107,031	100.0%	+3.7%	+3,798
売上原価	36,926	35.8%	40,133	37.5%	+8.7%	+3,207
売上総利益	66,306	64.2%	66,897	62.5%	+0.9%	+591
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	51,842 (13,964)	50.2% 13.5%	48,949 (11,059)	45.7% 10.3%	-5.6% -20.8%	-2,892 -2,904
営業利益	14,464	14.0%	17,948	16.8%	+24.1%	+3,484
営業外収益	879	0.9%	790	0.7%	-10.1%	-88
営業外費用	67	0.1%	62	0.1%	-8.5%	-5
経常利益	15,275	14.8%	18,676	17.4%	+22.3%	+3,401
特別利益	22	0.0%	25	0.0%	+15.4%	+3
特別損失	34	0.0%	98	0.1%	+182.0%	+63
税金等調整前 当期純利益	15,262	14.8%	18,603	17.4%	+21.9%	+3,340
法人税・住民税 及び事業税	5,179	5.0%	5,869	5.5%	+13.3%	+689
法人税等調整額	851	0.8%	312	0.3%	-63.3%	-539
当期純利益	9,231	8.9%	12,422	11.6%	+34.6%	+3,190

<当期のポイント>

◆原価率：前年比1.7ポイント上昇
(35.8%→37.5%)

* 薬価改定の影響(杏林製薬:6%台)、後発品の売上増、
キョーリン製薬グループ工場の影響

◆研究開発費率：前年比3.2ポイント低下
(13.5%→10.3%)

* 140億円→111億円(29億円減少)
前年にKRP-108 PhⅢ終了、ベンダ新用法・用量PhⅢ終了、
KRP-104の開発中止に伴う費用削減

◆販管費率(除R&D費)：前年比1.3ポイント低下
(36.7%→35.4%)

* 379億円→379億円

■営業利益 17,948百万円 (+3,484百万円)

* 営業利益率は16.8%と2.8ポイント上昇

■当期純利益 12,422百万円 (+3,190百万円)

■配当 50円00銭/株(うち、中間配当10円/株)
配当性向30.1%

貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	12年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	99,850	68.5%
現金及び預金	21,615	—
受取手形及び売掛金	45,067	
有価証券	7,372	
棚卸資産	20,738	
その他流動資産	5,056	
固定資産	45,822	31.5%
有形固定資産	14,544	—
無形固定資産	846	
投資その他	30,431	
資産合計	145,673	100.0%

流動負債	23,385	16.1%
支払手形及び買掛金	9,043	—
その他流動負債	14,341	
固定負債	4,086	2.8%
負債合計	27,471	18.9%
株主資本	117,931	81.0%
その他の包括利益累計額	269	0.2%
その他有価証券評価差額金	537	—
為替換算調整勘定	-267	
純資産合計	118,201	81.1%
負債及び純資産合計	145,673	100.0%

13年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
108,265	69.9%	+8,414
21,370	—	—
46,555		
11,667		
19,938		
8,733		
46,702	30.1%	+880
18,209	—	—
916		
27,577		
154,968	100.0%	+9,295

22,897	14.8%	-487
8,556	—	—
14,341		
2,970	1.9%	-1,115
25,868	16.7%	-1,603
126,985	81.9%	+9,054
2,113	1.4%	+1,843
2,293	—	—
-180		
129,099	83.3%	+10,898
154,968	100.0%	+9,295

<当期のポイント>

■ 流動資産：+8,414百万円

- ・現金及び預金の減少 (-245百万円)
- ・受取手形及び売掛金の増加 (+1,487百万円)
- ・有価証券の増加 (+4,295百万円)
- ・棚卸資産の減少 (-800百万円)
- ・その他流動資産の増加 (+3,677百万円)

■ 固定資産：+880百万円

- ・有形固定資産の増加 (+3,665百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+70百万円)
- ・投資その他の減少 (-2,854百万円)

■ 流動負債：-487百万円

- ・支払手形及び買掛金の減少 (-486百万円)
- ・その他流動負債の減少 (-0百万円)

■ 固定負債：-1,115百万円

主な業績項目の推移：連結

(単位:百万円)	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	90,889 (3,830)	99,764 (2,693)	104,069 (2,784)	103,232 (2,015)	107,031 (2,400)	113,000 (2,100)
売上原価 (売上原価率)%	36,791 (40.5%)	37,477 (37.6%)	37,554 (36.1%)	36,926 (35.8%)	40,133 (37.5%)	—
販売費及び一般管理費 (販管費率)%	45,146 (49.7%)	49,025 (49.1%)	50,071 (48.1%)	51,842 (50.2%)	48,949 (45.7%)	—
うち研究開発費 (研究開発費率)%	10,531 (11.6%)	11,807 (11.8%)	12,495 (12.0%)	13,964 (13.5%)	11,059 (10.3%)	12,100 (10.7%)
営業利益 (営業利益率)%	8,952 (9.8%)	13,261 (13.3%)	16,443 (15.8%)	14,464 (14.0%)	17,948 (16.8%)	18,600 (16.5%)
経常利益 (経常利益率)%	9,208 (10.1%)	14,234 (14.3%)	17,110 (16.4%)	15,275 (14.8%)	18,676 (17.4%)	19,200 (17.0%)
当期純利益 (当期純利益率)%	2,037 (2.2%)	8,848 (8.9%)	10,927 (10.5%)	9,231 (8.9%)	12,422 (11.6%)	12,700 (11.2%)
一株当たり当期利益(円)	27.24円	118.37円	146.21円	123.54円	166.25円	169.98円
資本金	700	700	700	700	700	—
総資産	124,552	137,190	147,234	145,673	154,968	—
株主資本	97,513	104,907	112,076	117,931	126,985	—
純資産	96,501	104,911	111,706	118,201	129,099	—
一株当たり純資産(円)	1,290.67円	1,403.60円	1,494.83円	1,581.94円	1,727.86円	—
自己資本利益率%	2.1%	8.8%	10.1%	8.0%	10.0%	—
自己資本比率%	77.5%	76.5%	75.9%	81.1%	83.3%	—
人員(人)	2,247人	2,246人	2,294人	2,297人	2,444人	—
設備投資	1,612	1,291	1,668	1,952	6,576	4,400
減価償却費	3,799	2,810	2,458	2,363	2,738	3,300

損益計算書の概要：杏林製薬①

(単位:百万円)

	12年3月期		13年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	93,697	100.0%	95,894	100.0%	+2.3%	+2,197
医薬品事業	93,697	100.0%	95,894	100.0%	+2.3%	+2,197
◆新医薬品	87,899	93.8%	88,975	92.8%	+1.2%	+1,075
○国内	85,995	91.8%	86,698	90.4%	+0.8%	+702
○海外	1,904	2.0%	2,277	2.4%	+19.6%	+373
◆後発医薬品	3,206	3.4%	4,116	4.3%	+28.4%	+909
◆一般用医薬品他	2,591	2.8%	2,802	2.9%	+8.2%	+211

<当期のポイント>

対前年

- 売上高 95,894百万円 (+2,197百万円)
- 国内新医薬品 86,698百万円 (+702百万円)
 - 12.3実績 13.3実績 (億円)
 - ・キプレス 368 ⇒ 396 (+28)
 - ・ムコダイン 215 ⇒ 191 (-24)
 - ・ペンタサ 180 ⇒ 176 (-4)
 - ・ウリトス 63 ⇒ 75 (+12)
- 海外新医薬品 2,277百万円 (+373百万円)
 - ・ガチフロキサシン 17 ⇒ 16 (-1)
- 後発医薬品 4,116百万円 (+909百万円)
 - ・主にキョーリンリメディオ(物流統合)による売上
- 一般用医薬品他 2,802百万円 (+211百万円)
 - ・ミルトン 19 ⇒ 20 (+1)

損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位:百万円)

	12年3月期		13年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年差額
売上高	93,697	100.0%	95,894	100.0%	+2.3%	+2,197
売上原価	32,046	34.2%	33,868	35.3%	+5.7%	+1,822
売上総利益	61,650	65.8%	62,025	64.7%	+0.6%	+374
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	47,679 (13,472)	50.9% (14.4%)	44,898 (10,733)	46.8% (11.2%)	-5.8% -20.3%	-2,780 -2,739
営業利益	13,971	14.9%	17,127	17.9%	+22.6%	+3,155
営業外収益	1,179	1.3%	1,100	1.1%	-6.7%	-79
営業外費用	24	0.0%	19	0.0%	-22.1%	-5
経常利益	15,126	16.1%	18,209	19.0%	+20.4%	+3,082
特別利益	22	0.0%	25	0.0%	+14.2%	+3
特別損失	22	0.0%	81	0.1%	+260.2%	+58
税引前当期純利益	15,126	16.1%	18,152	18.9%	+20.0%	+3,026
法人税・住民税 及び事業税	5,100	5.4%	5,635	5.9%	+10.5%	+534
法人税等調整額	751	0.8%	585	0.6%	-22.1%	-165
当期純利益	9,274	9.9%	11,931	12.4%	+28.7%	+2,657

<当期のポイント>

◆原価率：前年比 1.1ポイント上昇
(34.2%→35.3%)

* 上昇要因：後発品の売上増加、薬価改定(6%台)

◆研究開発費率：前年比 3.2ポイント低下
(14.4%→11.2%)

* 135億円→107億円 (28億円減少)

前年にKRP108 PhⅢ終了、ペンタサ新用法・用量PhⅢ終了
KRP-104の開発中止に伴う費用削減

◆販管費率(除R&D費)：前年比0.9ポイント低下
(36.5%→35.6%)

■営業利益 17,127百万円 (+3,155百万円)

* 営業利益率は17.9%と3.0ポイント上昇

■当期純利益 11,931百万円 (+2,657百万円)

貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位:百万円)

	12年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	80,542	66.0%
現金及び預金	9,444	
売掛金	42,046	
有価証券	7,309	—
棚卸資産	17,877	
その他流動資産	3,863	
固定資産	41,443	34.0%
有形固定資産	11,497	
無形固定資産	388	—
投資その他	29,558	
資産合計	121,985	100.0%

13年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
84,041	69.0%	+3,499
7,192		
43,320		
11,604	—	—
16,615		
5,308		
37,840	31.0%	-3,603
11,340		
284	—	—
26,215		
121,881	100.0%	-103

流動負債	16,526	13.5%
支払手形及び買掛金	6,609	
その他流動負債	9,916	—
固定負債	3,281	2.7%
負債合計	19,807	16.2%
株主資本	101,652	83.3%
評価・換算差額等	525	0.4%
純資産合計	102,177	83.8%
負債及び純資産合計	121,985	100.0%

16,880	13.9%	+354
5,445		
11,435	—	—
2,156	1.8%	-1,125
19,037	15.6%	-770
100,586	82.5%	-1,065
2,257	1.9%	+1,732
102,844	84.4%	+666
121,881	100.0%	-103

<当期のポイント>

■流動資産： +3,499百万円

- ・現金及び預金の減少 (−2,252百万円)
- ・売掛金の増加 (+1,273百万円)
- ・有価証券の増加 (+4,295百万円)
- ・棚卸資産の減少 (−1,261百万円)

■固定資産： −3,603百万円

- ・有形固定資産の減少 (−156百万円)
- ・無形固定資産の減少 (−104百万円)
- ・投資その他の減少 (−3,343百万円)

■流動負債： +354百万円

- ・支払手形及び買掛金の減少 (−1,164百万円)
- ・その他流動負債の増加 (+1,518百万円)

■固定負債： −1,125百万円

主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位:百万円)	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期 (予想)
売上高 (海外売上)	77,962 (3,148)	85,308 (2,563)	92,531 (2,642)	93,697 (1,904)	95,894 (2,277)	100,000 (1,900)
売上原価 (売上原価率)%	29,551 (37.9%)	28,374 (33.3%)	31,227 (33.7%)	32,046 (34.2%)	33,868 (35.3%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	39,894 (51.2%)	43,795 (51.3%)	45,658 (49.3%)	47,679 (50.9%)	44,898 (46.8%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	10,056 (12.9%)	11,121 (13.0%)	11,867 (12.8%)	13,472 (14.4%)	10,733 (11.2%)	11,300 (11.3%)
営業利益 (営業利益率)%	8,517 (10.9%)	13,139 (15.4%)	15,645 (16.9%)	13,971 (14.9%)	17,127 (17.9%)	17,700 (17.7%)
経常利益 (経常利益率)%	9,463 (12.1%)	14,580 (17.1%)	16,729 (18.1%)	15,126 (16.1%)	18,209 (19.0%)	18,600 (18.6%)
当期純利益 (当期純利益率)%	4,041 (5.2%)	9,472 (11.1%)	10,732 (11.6%)	9,274 (9.9%)	11,931 (12.4%)	12,400 (12.4%)
一株当たり当期利益(円)	54.42円	127.54円	144.51円	124.88円	160.66円	—
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	—
総資産	108,522	119,822	122,661	121,985	121,881	—
株主資本	89,328	95,384	95,719	101,652	100,586	—
純資産	88,470	95,505	95,573	102,177	102,844	—
一株当たり純資産(円)	1,191.24円	1,285.95円	1,286.87円	1,375.79円	1,384.77円	—
自己資本利益率%	4.6%	10.3%	11.2%	9.4%	11.6%	—
自己資本比率%	81.5%	79.7%	77.9%	83.8%	84.4%	—
人員(人)	1,716人	1,724人	1,804人	1,798人	1,797人	—
設備投資	969	1,051	1,019	1,425	1,507	2,800
減価償却費	3,042	2,198	1,968	1,790	1,743	1,800

2013年3月期実績と2014年3月期予想

(単位:百万円)

	12年3月期 (実績)	13年3月期 (実績)	14年3月期 (予想)	対前年	
				増減額	増減率(%)
売上高	103,232	107,031	113,000	+5,969	+5.6
医薬品事業	100,654	105,162	111,300	+6,138	+5.8
◆新医薬品	88,011	90,686	95,600	+4,914	+5.4
○国内	85,995	88,286	93,500	+5,214	+5.9
○海外	2,015	2,400	2,100	-300	-12.5
◆後発医薬品	8,656	10,095	11,100	+1,005	+10.0
◆一般用医薬品他	3,987	4,379	4,600	+221	+5.0
ヘルスケア事業 (スキンケア)	2,577	1,869	1,700	-169	-9.0
営業利益	14,464	17,948	18,600	+652	+3.6
経常利益	15,275	18,676	19,200	+524	+2.8
当期純利益	9,231	12,422	12,700	+278	+2.2

主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

杏林製薬	2012年3月期	2013年3月期
売上高	937	959
営業利益	140	171
当期純利益	93	119

2014年3月期(予想)
1,000
177
124

キョーリン リメディオ	2012年3月期	2013年3月期
売上高	96	104
営業利益	3	4
当期純利益	3	5

2014年3月期(予想)
115
4
2

ドクタープログラム	2012年3月期	2013年3月期
売上高	26	19
営業利益	1	-2
当期純利益	0	-3

2014年3月期(予想)
17
1
1

2013年3月期 主要製品売上の状況

(単位:億円)

		09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期		14年3月期 (予想)
						実績	前 同 比	
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	252	292	345	368	396	+7.7%	408
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	206	209	213	215	191	-10.8%	187
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	157	194	194	180	176	-2.0%	186
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	20	37	55	63	75	+18.3%	84
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	50	46	40	34	30	-12.3%	27
海外 新医薬品	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	25	22	22	17	16	-2.2%	16
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	18	19	19	19	20	+8.1%	21

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況(連結) *Kyorin*

健康はキョーリンの願いです。

(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期		14年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	10,531	11,807	12,495	13,964	11,059	-20.8%	12,100
設備投資	1,612	1,291	1,668	1,952	6,576	+236.8%	4,400
減価償却費	3,799	2,810	2,458	2,363	2,738	+15.9%	3,300

<設備投資の詳細(実績/予想)> (単位:億円)

	12年3月期 (実績)	13年3月期 (実績)	14年3月期 (予想)
工場設備	11	46	16
管理・販売設備	4	14	12
研究用設備	4	5	16

2013年3月期 セグメント情報

報告セグメントごとの売上高および利益又は損失

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	1,070	+38	179	+34
医薬品事業計	1,052	+45	180	+38
◆新医薬品	907	+27		
○国内	883	+23		
○海外	24	+4		
◆後発医薬品	101	+14		
◆一般用医薬品他	44	+4		
ヘルスケア事業計	19	-7	-2	-3
調整額	-	-	2	0

(注)「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用し、報告セグメントは【医薬品事業】【ヘルスケア事業】としております

開発品一覧①(2013年5月9日現在)

PhⅢ ~承認

※: 前回(2013年3月期 第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
承認※ (13年3月)		ペンタサ (坐剤)	潰瘍性大腸炎	スイス フェリング社	活動期潰瘍性大腸炎を対象とした新剤型 (1日1回投与)	新剤型の開発 PhⅢ終了(12年2月)
申請 (12年9月)	(アメリカ) スカイファーマ : 申請(09年3月) (欧州) ムンディファーマ : 上市(12年9月)	KRP-108 (吸入剤)	気管支喘息治療剤	イギリス スカイファーマ社	吸入ステロイド薬(ICS:フルチカゾン)及び長時間作用性β2刺激薬(LABA:ホルモテロール)の配合剤で利便性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社とライセンス契約 (08年4月) 国内PhⅢ終了(12年3月)
PhⅢ (12年9月)	(欧州) アルミラール社 : 上市(12年9月) (アメリカ) フォレスト社 : 上市(12年12月)	KRP-AB1102 (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	アセチルコリン受容体拮抗作用によりCOPDに伴う呼吸困難、息苦しさなどの諸症状を改善する長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(アクリジニウム) ①全身性副作用が少ない ②1日2回投与により1日を通じて症状、呼吸機能改善 ③最大効果発現までの時間が短い ※吸入器: Genuairを使用	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
PhⅢ※ (13年4月)		キプレス (チュアブル錠、 細粒)	気管支喘息治療剤	米国 メルク社	小児: アレルギー性鼻炎	新効能・効果 MSD(株)との共同開発

開発品一覧②(2013年5月9日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

※: 前回(2013年3月期 第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (12年5月)	(欧州) アルミラール社: Ph III (アメリカ) フォレスト社: Ph III	KRP-AB1102F (吸入剤)	慢性閉塞性肺疾患	スペイン アルミラール社	長時間作用型ムスカリンM3拮抗剤(LAMA: アクリジニウム)と長時間作用性β2刺激薬(LABA: ホルモテロール)の配合剤	アルミラール社とライセンス契約 (11年2月)
Ph II (11年8月)	Ph III メルツ社	KRP-209	耳鳴	ドイツ メルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph II ※ (13年3月)	Ph II (POC) (10年12月) ハルティス	KRP-203	自己免疫疾患 臓器移植 IBD	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ハルティスとライセンス契約 (06年2月) 新たなライセンス契約 IBD(10年11月)
Ph I (11年8月)		KRP-AM1977X (経口剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社	①薬剤耐性グラム陽性菌(MRSAを含む)に対して優れた抗菌力 ②優れた体内動態(経口吸収、組織移行) ③前臨床試験で安全性はクリア、高い安全性を期待	
Ph I (12年7月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	ニューキノロン系 合成抗菌剤	自社		

■将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

新本社ビルのご紹介

ビル名：御茶ノ水ソラシティ 15階・16階(受付16階)
住所：〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

